

タクミクリンオゾン濃度試験報告書

ZTR-TAKUMI-001-00

作成日: 2022年3月3日

OHNIT(株) 技術部

承認者 平垣 圭介

確認者 堀 貴晃

作成者 森山 涼哉

1. 目的

匠様で設計を行っているタクミクリンの実使用環境でのオゾン濃度測定を実機1台で行う。

2. 日時

2022/2/24~27

天候: 晴れ 温度: 20°C 相対湿度: 18%

場所: オーニット旧本社工場製造フロア

3. 想定

オーニット旧本社工場製造フロアでオゾン濃度推移を確認。
最大オゾン発生時間である255分とその後のオゾン濃度推移を測定。

タクミクリンは部屋の奥に向けてオゾンを噴霧することが想定される。

→オゾンモニタ①: 直接オゾンが噴霧されオゾン濃度が高くなるフロア奥側

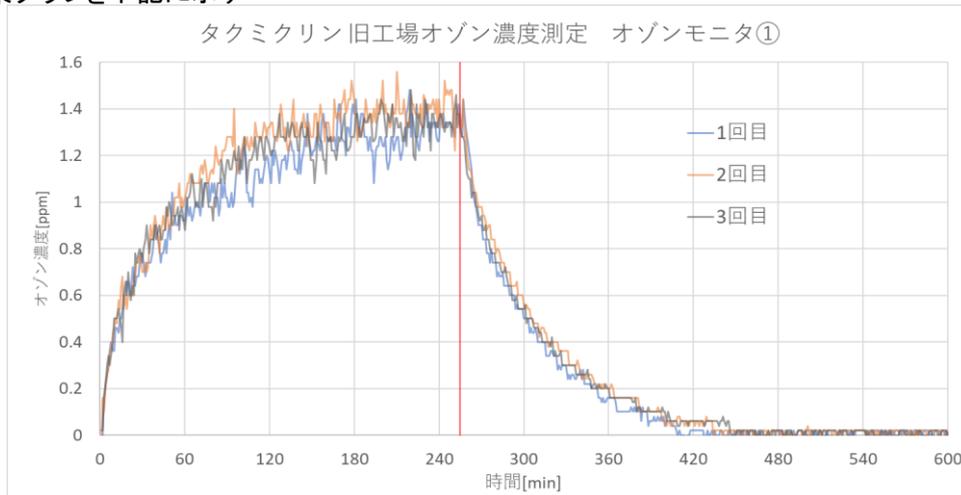
オゾンモニタ②: オゾンモニタ①と対極でオゾン濃度が低くなるフロア入り口側 (図1参照)

4. 結論

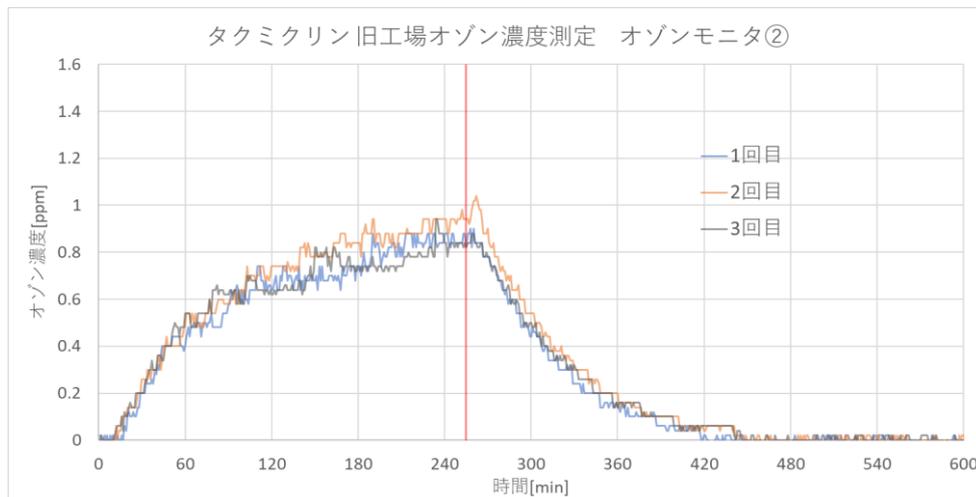
タクミクリン実機でのオゾン濃度推移は下記グラフのようになった。
本試験条件では、オゾン濃度が最大0.8~1.5ppmに到達することが確認できた。
また、255分経過後はオゾン濃度が減少し3時間ほどで0.1ppm以下になった。

5. 結果

試験結果グラフを下記に示す



グラフ1. オーニット旧本社工場製造フロア内オゾン濃度推移①



グラフ2. オーニット旧本社工場製造フロア内オゾン濃度推移②

6. 器具試薬装置

オゾンモニタ/EG-3000D *2台
データロガー/GL200 *2台
タクミクリン

7. 方法

- 1) オーニット旧本社工場製造フロアにタクミクリンを設置する(エアコン暖房20°C設定)。
- 2) 図1のようにオゾンモニタを設置しオゾン発生を開始する。
- 3) データロガーでオゾン濃度を記録し、255分間動作させる。

○参考写真

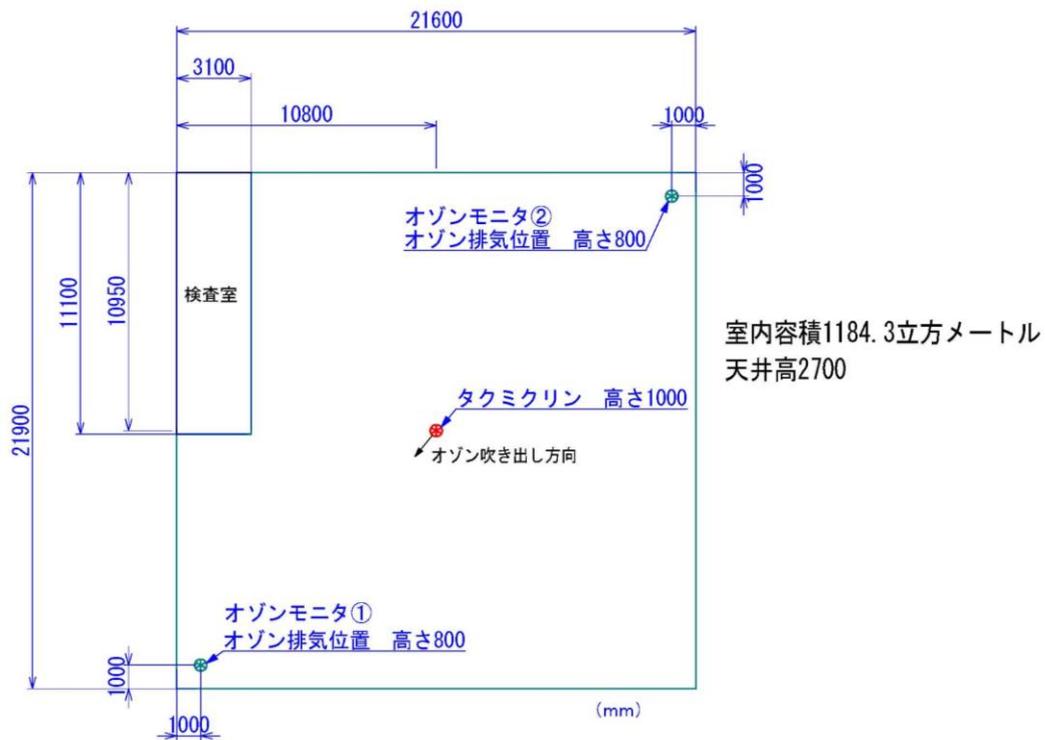


図1.試験配置図



写真1.試験の様子